
サヨウナラ。

葵 凜香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サヨウナラ。

【Nコード】

N9861A

【作者名】

葵 凜香

【あらすじ】

未練なく別れ話を切り出す女性の物語。

(前書き)

小説らしくないですが、箸休めにでも読んでいただけるとうれしいです。

よろしければ評価もお願いします。

ここはおしゃれなカフェ。周りの席にはカップルが目立つ。なのに私は30分も1人で待ちぼうけを食らわされている。

そもそもあなたが待ち合わせ場所にこの店を選んだところから、今日の結末は見えていた。あなたは私を愛していない。

今日、私はあなたとの関係にピリオドを打つ。

*** サヨウナラ ***

「遅れて悪い！ たく休みなのに仕事の電話がかかってきてさあ」

あなたはいつも仕事優先で約束の時間にもよく遅れてくる。その仕事第一なところが好きだったよ。できる男はかっこいい。

「髪とかいじる時間無くてさあ、寝癖ついたままだし」

でもその髪形、無造作にセットしたみたいでかわいいよ。もともと顔が整ってるからある程度のことには許されちゃう。

そのルックス、好きだったよ。正確には今でも好きかな、見た目だけは。

「こないだドタキャンしてごめんな！埋め合わせは絶対するから」
心配りが良くできてるんだよねえ。さらに誠意をこめた謝罪なん
てされたら大抵のことは多めに見てしまう。

そのやさしいことが好きだったよ。……真実を知るまではね。

「ねえ、ドタキャンした日何してたの？」

「得意先から呼び出されて飲みに行かされてたんだ」

「大変だね」

「大変大変！あつ、すみません！注文いいですか？」

「別れよう」

ウエイトレスを呼んだあなたはゆっくり振り返り私をみつめた。
驚いた？そりゃあなたにとっては突然のことだもんね。

「失礼しまーす！ご注文をどうぞ！」

あなたは乾いた笑いを一つ漏らす。

「とりあえず何飲む？この店ミルクティーがうまいって有名だから
な。あつ、この『生乳たっぷりはちみつミルクティー』なんていい
んじゃない？」

彼はそう言うとミルクティーを2つ注文した。私はそれを見なが
らため息を一つついた。

私の意見も聞かずに勝手に物事を決めるところも嫌いじゃなかった。でも今は大嫌い。

「別れよう」

私は彼の目を見てもう一度告げた。

「なんで……？」

お冷を一口のどに注いであなたは渴きをつるおした。

「私との約束をキャンセルして会社の女の子を家に泊めるような男に、愛情を感じなくなっただから」

彼は思わず目を逸らした。さあこれからどうする？開き直る？シラ切る？それとも謝る？何を言われたって今日の私は負ける気がしないの。

「……ごめん、つい出来心で1回だけ」

うそつき。前からだったじゃない。お風呂場のカーペットにはベタに長い髪の毛が残っていて、車の助手席にはこれまたベタにピアスを落としてあった。ご丁寧にキャッチまでつけて。

あなたとあの子が部屋に入っていく時、私はあの子と目が合ったのよ。あの不敵な笑顔は一夜を共にするだけの関係じゃないでしょ。彼女、あなたの腕にしっかり掴まりながら『いただきます』って顔してたわよ。

「とにかくもう別れるからね」

私がそう言うと、タイミングよくミルクティーが運ばれて来た。

「本当に悪かった。お前が1番だから考え直してくれ」

順位付けられたってうれしいわけないでしょ？なんでもそもそも2番がいるのよ。

私はまた大きいため息を吐き出す。

「私のこと分かつてもしてくれない人ともう付き合いたくないの」

「お前のことなら何でもわかつてるよ！」

必死に目で訴えてくる彼に私は笑顔で言葉を返す。

「あなたはわかってない。もう答えは出てるじゃない」

「…………え？」

私はミルクティーのカップを彼の前に押しやった。

「私、ミルクティーも大っ嫌いなの。そんなこと忘れてたんでしょ？…………それとも3年間も付き合ってたでも言いたい？」

彼はしまった、という顔をして目をつぶった。私はコートとバッグを手に持ち、立ち上がった。

「待てよ」

「サヨウナラ」

私は彼に背を向け店を後にした。

彼は私を追って来なかった。所詮私はその程度の女だったんだ。少し淋しかったけど、心は妙にスッキリしていた。

私だけを愛してくれない恋人なんて、そんなの男はいらない。

(F i n .)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9861a/>

サヨウナラ。

2010年10月17日09時08分発行